

平成 26 年度第 2 回環境審議会
議事録

平成 26 年 10 月 31 日

足立区役所 12 階 1205-B 会議室

(開催概要)

平成 26 年度第 2 回足立区環境審議会議事録

会 議 名	平成 26 年度第 2 回環境審議会		
開 催 年 月 日	平成 26 年 10 月 31 日(金)		
開 催 場 所	足立区役所南館 1205 B 会議室		
開 催 時 間	午前 9 時 30 分から午前 11 時まで		
出 席 状 況	委員現在数 14 名 出席委員数 13 名		
出 席 委 員	田中 充	高村 淑彦	藤沼 壮次
	ぬかが 和子	たきがみ 明	くぼた 美幸
	渡辺 源勝	佐藤 強士	広澤 マサ子
	遠田 明子	田邊 治代	長谷川 京子
	石川 義夫		
事 務 局	環境部 環境部長 環境政策課長 清掃計画担当課長 足立清掃事務所長 生活環境保全課長		
会 議 次 第	別紙のとおり		
会議に付した議題	1 協議事項 2 報告事項 3 その他		

(会議経過と議事の要旨)

会 長	<p>定刻になったので、平成 26 年度第 2 回足立区環境審議会を開会する。</p> <p>本日の出席委員を確認する。委員定数 14 名、出席委員 13 名なので本日の環境審議会は成立していることを報告する。</p> <p>次に本日の議事録の署名人に、佐藤強士委員と渡辺源勝委員を指名する。</p> <p>事務局から配布資料の確認をお願いする。</p>
事務局	<p>本日の資料の確認をする。事前に送付した資料は 3 種類である。第 2 回足立区環境審議会資料つづり、【資料 1】環境都市構築に関する調査報告、【資料 2】足立区環境基本計画の平成 25 年度実績報告である。</p> <p>席上に配布した資料は 6 種類である。本日の次第、裏面が座席表、特別区協議会が主催する講演会「再生可能エネルギーで環境にやさしいまちづくり」のチラシ、東京都環境局の「冬の節電」のパンフレット、株式会社伊藤園の「お茶で東京を美しく」キャンペーンのチラシと環境配慮の取組みに関する資料、前回の環境審議会の議事録を配布した。</p> <p>本日は席上に配布しているお茶について報告する。</p> <p>今年 3 月の審議会では間伐材を使用したカートカン、前回 6 月の審議会では再生ペットボトルを使用した水を配布した。今回のお茶は、売り上げの一部が株式会社伊藤園から東京都の「緑の共同募金」に寄付され、都内小中学校の校庭の芝生化や街路樹の緑化事業などに活用される。緑豊かな環境づくりとヒートアイランド対策に貢献している。皆様もぜひ、飲料を選ぶときには、環境の視点からも商品をご覧くださいませ。</p> <p>事務局からは以上である。</p>
会 長	<p>それでは次第の 4、検討事項に移る。環境都市の構築に関する調査の進捗状況について事務局から説明をお願いする。</p>
事務局	<p>2 人の委員が本日は別の会議と重なっているため、途中退席するため、先に退席する委員の意見を踏まえ、この後の審議を行う。なお、退席する委員には事前に今回の内容を説明させていただ</p>

	た。
委員	<p>環境モデル都市に選定されるのは、ハードルが高いことを実感している。自治体によっては3回も落選している。</p> <p>資料を見ると、前回の審議会で議論になった足立区の特徴を活かした計画を作る意気込みがよく表れている。</p> <p>資料1の「1 人口・世帯数」に、「2013年に区が実施した人口推計では、2014年をピークとして人口減少に転じる」とあるが、人口が減少するとは必ずしも言えないのではないかと。今後、綾瀬、花畑、千住、江北、六町エリアで開発が行われ、住居系建築物の建設が予定されている。これらの人口増加の要因が見込まれていないのではないかと。また、環境に視点をあてるならば、人口減少は書く必要はないと思う。</p> <p>次に、「5 環境分野における足立区の特徴（強み、弱み）」について、「今後、建物の建て替えを契機にエネルギー効率のよい建物を普及拡大することができる」、「リサイクル関連事業者が多いので、資源循環型の社会基盤がある」、「区内世帯の半数以上が集合住宅に居住しているなかで、再生可能エネルギーや省エネ設備機器の導入のためには、建設時の規制など導入を促す仕組みが必要」とあるが、環境モデル都市提案書形式には具体案があまり見受けられない。この分野は足立区の課題でもあるのでより踏み込んだ具体案を展開してほしい。</p> <p>メガソーラーなど太陽光発電の固定価格買取制度の申請が全国的に広がっているなかで、電力会社による電力買取拒否の問題があるなかで、賃貸居住者は太陽光発電システムを設置できず、環境に貢献したくてもできないのが実情である。ファンド創設により、多くの区民や企業も環境貢献に参加できる仕組みづくりを検討してほしい</p> <p>今年5月に参加した環境自治体会議ニセコ会議において、長野県飯田市長は「環境学習において、飯田は中心になる人を切れ目なく育てていく」と述べていた。足立区も飯田市の取組みを参考にしてほしい。</p> <p>また、北海道富良野市や四国では自然塾という森林再生などの取組みを体験しながら、子どもたちが環境について考える取り組みを実施している。NPOが中心になり、いくつかの自治体で展開している。東京でも、昭和記念公園でスタートしているので参</p>

	<p>考にしてほしい。</p> <p>地産地消など消費生活においてフードマイルの考え方がある。ものの移動距離が少なければ消費エネルギーが少なくて済む。その点は首都圏の強みである。足立区は都心でありながら埼玉や千葉など生産地が近いことを強みにしてほしい。フードマイレージの見える化の工夫も行うなど計画に盛り込んでほしい。</p>
会 長	<p>委員から多面的にご意見をいただいた。それでは事務局から改めて資料の説明をお願いし、その後、各委員から意見をいただく。</p>
事務局	<p>環境都市の構築に関する調査の進捗状況について、資料1をご覧いただきたい。</p> <p>足立区環境基本計画には、「地球にやさしいひとのまち」を基本方針に掲げている。この基本方針を踏まえ、約10年後の足立区の望ましい都市像を具体化していくために方法や手段を検討している。</p> <p>その手段として、内閣府が所管する環境モデル都市にエントリーするために何が必要かを調査、研究する。</p> <p>資料は、足立区の地域特性と現状分析、環境都市の構築に向けた手法を記載している。</p> <p>足立区は住宅都市・中小企業の多い都市であり、一言でいえば普遍的で特段の特色がない都市である。区で推計した人口は、2014年をピークに減少すると推計している。一方で世帯数は伸びていく。端的に言えば、単身世帯など少人数世帯が増えていく。そして10年後には人口が64万人、2025年には50万人と推計している。</p> <p>産業については、製造品出荷額は1990年の約8102億円をピークに減少し、2009年度には半分以下になった。一方で、商業施設、オフィスビル、大学の開学により、区内の業務施設の延べ床面積は大幅に増加している。日本全体が第2次産業から第3次産業に転換しており、同じ経過をたどっている。</p> <p>エネルギー使用量について、2011年は1990年比で20%減、二酸化炭素排出量は9%減となり、産業部門の減少によるものである。</p> <p>ごみ量は1990年以降、減少傾向にある。分別、資源化・3R意識の高まりが背景にあると考えられる。</p> <p>これらを踏まえ、環境分野における足立区の特徴（強み、弱み）</p>

を分析しているので説明する。

区内の人口が多いため、与える環境負荷は大きいですが、区民の2%の方が環境配慮行動に取組めば、その数は1万人を超えることになる。

区内のほぼ全域が既成市街地であるため、スマートシティなど先進的な取組みは難しいが、特定のエリアや建物で実現させることが可能である。

市街化された時期からみると。区内の建物は建替えの時期にきている。これを契機にエネルギー効率のよい建物を普及拡大していくことが重要である。

区内には、中小・零細事業者が多い。自宅と店舗、あるいは工場を兼ねていることが多く、職住近接のため住民ぐるみの活動がしやすい。

歴史的な経緯から、区内にはリサイクル清掃関連事業者が非常に多く、省エネ・省資源など資源循環型社会の基盤ができています。

区内で利用できる再生可能エネルギーは、太陽エネルギーと地中熱が中心であり、それぞれ課題がある。

区内世帯の半数以上が賃貸住宅に居住しており集合住宅の割合が高い。こうした住宅での再生可能エネルギーや省エネ設備導入のためには建設時のしくみが必要である。

森林や豊かな生態系等の自然環境には恵まれていないが、23区の中でも公園が多いので活用できる。

昔からの地縁が非常に強く残っているが、年々町会・自治体の加入率は低下している。

地形が平坦で自転車の利用に適している。日暮里舎人ライナー、つくばエクスプレスが新たに開業し、はるかぜの導入など公共交通機関の利便性が高い。

大都市の中では、自動車のCO₂排出量の割合が高い。要因は首都高速や環状七号線が通っているため、通過交通の排出量が影響している。

以上の強みを活かし、弱みを補う形で環境都市づくりを進めていく。

次は環境モデル都市提案書形式で整理した検討案について説明する。

環境モデル都市としての位置づけは記載のとおりであるが、大きな特色のない足立区が環境モデル都市になれば、同様の自治体

のモデルになり、よい波及効果が期待できる。

CO₂については、削減を図るだけでなく、区内で難しい森づくり、自然や生態系を学ぶ機会の創出と、地球環境保全に貢献する活動に加え、防災対策やライフスタイルの変革といった副次的効果をもつ施策を積極的に推進する。

現状分析について、温室効果ガスの排出量の割合は、家庭、自動車、業務部門の順に高い。

再生可能エネルギーについては、太陽エネルギーが中心である。普及・拡大の仕組みをつくるとともに、区内では難しいバイオマスや小水力発電等を友好自治体等と連携し、足立区が出資する形で貢献する。そのためにファンドを設立し、多くの皆様から出資を募り、再生可能エネルギーの普及拡大を進めていく。

また、公共施設を利用して率先的に太陽光発電やデマンドレスポンスシステムを導入していく。雨水利用促進法の主旨に沿って、水資源の有効活用に努める。

次は友好自治体等との連携による環境学習とカーボン・オフセットである。

区では難しい里山・森林の保全活動について環境学習を進めていく。また、カーボン・オフセットの制度を作り上げていくことが非常に重要である。体験学習の実施、生物多様性の理解促進を図っていく。

次は建築物のスマート化である。エネルギー使用量の見える化や使用量削減のために具体的な手法を検討していく。現在は、科学技術振興機構低炭素社会戦略センター（LCS）と実証実験を行っている。ここで得られたデータを活用して、区内の各家庭の使用量削減の方法を検討する。集合住宅における見える化の促進や建築物がどの程度エネルギーを消費するかを示す「エネルギーパス」の導入を検討し、省エネ化を進めていく。

次はスマートモビリティの推進である。公用車の電気自動車導入や事業者の電気自動車導入促進、レンタサイクル、カーシェアリングを推進していく。

環境学習については、今年度から中学生向けと高校生以上の大人向けの2つの環境学習講座を新設した。受講された方々には終了後認定し、区の事業や地域の活動において活躍していただく。

次は区内事業者との連携である。太陽光発電システム設置促進の為に、区内の事業者を紹介する「そらつな制度」の充実を図っ

	<p>ていく。</p> <p>また、区内には病院や高齢者福祉施設が多いことから福祉施設等へのスマートモビリティ導入可能性について検討していく。</p> <p>次は災害に強い持続可能なまちづくりである。避難所への太陽光発電や蓄電池の導入を進めるとともに、公園へのソーラー公園灯の設置を推進する。</p> <p>次は地産地消などの消費生活における環境配慮である。都市農業公園を活用し、区内で生産される野菜などの販売や普及を図っていく。</p> <p>商品選択や購入時における環境配慮では、カーボンフットプリントやグリーン購入を啓発していく。</p> <p>また、現在行っている環境ポイント制度を充実しながら皆様とともに環境の取組みを進めていく。</p>
会 長	<p>資料1についての説明があった。</p> <p>趣旨は、足立区の将来像の具体化とそれを実現する手段として環境モデル都市を目指すことである。</p> <p>環境モデル都市は内閣府が募集しており、全国で先進的な環境の取組みする都市を採択し、モデルとして全国に広めることを目的としている。その基礎調査の内容がまとまった。</p>
事務局	<p>本日は結論を出すのではなく、皆様からの意見を踏まえて計画案を深めていくことになる。</p> <p>次回の審議会でまたご検討をいただき最終的に決定していく。</p>
会 長	<p>ご意見ご質問があればお願いします。</p>
委 員	<p>「5 足立区の特徴（強み、弱み）」について、「建物の建て替えを契機にエネルギー効率のよい建物を普及拡大することができる」とあるが、防災面からも建て替える前に道路の拡幅も含めるべきだと思う。</p>
委 員	<p>「環境分野における足立区の特徴」のなかで、「区内で利用できる再生可能エネルギーは、太陽エネルギーと地中熱が中心である。」と書いてある。地中熱とは区内で具体的にどのようなことを行っているのか。</p>

	<p>また、太陽エネルギーの活用について新聞等をみると、電力会社の電力買取拒否の問題があるが、ファンドの創設も買取り価格を前提で行っているのではないか。</p>
事務局	<p>地中熱は地熱とは異なり、地表面からある一定の深さになると温度が一定になる。地上と地下でヒートポンプによる温度差を利用し、冷暖房の補助をする。</p> <p>区内周辺にはモデルハウスが建っているので研究していく。東京スカイツリータウンでは地下に地中熱ヒートポンプが切歯されており、見学も受入れている。</p> <p>また、計画を作っているときに、電力会社による電力買取拒否の問題が出てきた。買取り価格が下がることによって、事業採算の見通しが立たなくなる。電力会社は送電設備の問題から、安定供給のために、発電が不安定な太陽光発電による電力の買取りを制限している。</p> <p>行政側が、どのような支援ができるか。事務局も注視している。ただし、家庭用は従来通りで問題ない。</p>
会長	<p>本日の見学先である埼玉県環境科学国際センターは、地中熱の研究を行っている。国内では非常に少数であるが実証、実用が始まっている。</p> <p>地中熱は住宅や公共施設では熱交換システムを入れているが、あくまで補助的な熱源である。</p> <p>電力会社の買取拒否については、メガソーラー設置申請者が登録しても、事業化せず数年経過して売電できる権利を他人に売ることが横行していることも問題である。</p> <p>1年以内に事業化しないとキャンセルすることを国も検討している。</p>
委員	<p>区の環境の取組みが区民へのPR不足を感じる。</p> <p>例えばグリーンカーテンが挙げられる。公用車の電気自動車導入も非常に遅い。区内を走るのに積極的にCO₂削減をPRしてほしい。コストもかかるが積極的に取組まなければならない。</p>

委員	環境モデル都市の都市といえば広く感じる。私の地域では四方が川に囲まれており、自然も多く残っている。小さい地域をモデルにしてもよいのではないか。
会長	他にあればお願いします。
委員	<p>「1 人口・世帯数」にある人口減少について、私は子育てアドバイザーや授業支援ボランティア等をしているため、母親からの声を聞く。子どもが幼稚園や保育園を卒業して、学校が上がるにつれ、教育水準が高くない等の理由で区外に通わせたいと思う親が多い。また、幼稚園から気を使っている方もいる。また、大学ができて学生が増えたが、足立区に住みたい、または住み続けたいと思われるための施策を考える必要がある。</p> <p>私の町会では、会員の人数が減っているので、防災訓練を行ってもお年寄りだけになってしまう。足立区からの情報は届くが、回覧を回すのは班で5件だけである。発信の仕方に課題があるので検討してほしい。</p>
委員	<p>環境都市の構築に向けて推進していただきたいのは環境学習である。</p> <p>地域の公園をシニアの方が掃除しているのをよく見る。しかし、空き缶などごみを捨てていく方も少なくない。</p> <p>子どもの頃から環境学習やボランティア活動を推進していただき、環境意識の醸成を図ってほしい。</p>
委員	<p>足立区は道が平坦なので自転車利用を推進してほしい。しかし、自転車道路があまり整備されていないのが現状である。</p> <p>また、福祉施設の車が非常に多い。電気自動車などの導入はよいと思う。</p> <p>先日、資源ごみ持ち去り防止パトロールの方を見かけたが、持ち去る現場を見かけても注意もせず、見守るだけだった。何もしないのであれば数人で回る必要はないと思うがいかがか。</p>
委員	環境モデル都市の認定には、どのような課題をクリアすれば立候補できるのか。いつ目指すのか。

	<p>また、環境学習について、小・中学校では定着している実感があるが、そこで学習が止まっている。</p> <p>高校生またはその先の切れ目のない環境学習を打出してほしい。</p>
会 長	<p>いくつか質問、意見をいただいた。事務局から回答をお願いする。</p>
事務局	<p>公用車のエコカー導入については、遅れていると認識している。来年度から積極的な導入を目指し、電気設備を含めて、予算措置を行う。環境部だけではなく、全庁的にエコカーを優先する取り組みを行う。</p> <p>グリーンカーテンについては、全小学校で実施をお願いしており、今年度は55校で実施した。子どもたちの学習も兼ねている。表彰式もあり、19校から応募をいただいた。今後ともグリーンカーテンを推進していく。</p> <p>また、委員から環境モデル都市は小さなモデルにしてもいいのではないかと話があった。他の環境モデル都市でも市内全域や自治体すべてを行っている訳ではない。飛び抜けている地域をメインに持ってくる場合もある。足立区らしい地域の活動を中心にすることも考えられる。</p> <p>防災・災害について、建築室を中心に災害に強い街づくりを行う方針が出てきたので盛り込める。</p> <p>PRの工夫については多くのご意見をいただいた。区民に浸透していない部分もあるので、来年度は新しい手法を取り入れる予定である。</p> <p>自転車道路については、竹の塚と西新井の2か所でモデル設置したが、交通管理上、警視庁が難色を示している。都知事がオリンピックに向けて、自転車レーンを整備すると話をしているので期待したい。</p> <p>資源の持去りは、民間のパトロール員が朝4時から9時まで、警察OBの専門非常勤が7時から12時前まで行っている。ご質問の件は確認する。</p> <p>警察OBの専門非常勤は区で採用し、2人1組で巡回している。過料は年間80数件科してきて、それ以外は民間委託である。また、今までは、違反した人に対しては2,000円の過料としている条例</p>

	<p>の改正を行い、氏名公表と20万円以下の罰金を科すことが可能となった。</p> <p>GPS調査も始まった。これは持ち去った紙を買取る業者注意できるようにGPSを仕掛けるものである。</p> <p>環境モデル都市の条件は、大きな目的は温室効果ガス排出量の大幅な削減にある。高い目標を掲げて、先駆的なチャレンジを行う都市を環境モデル都市と呼ぶ。</p>
会 長	<p>本日も活発な議論をしていただき、感謝申し上げます。時間の都合上、最後にご質問ご意見があればお願いします。</p>
委 員	<p>グリーンカーテンを全校で行うことはよい。地元の学校のグリーンカーテン事業を手伝って感じたことがある。昔は学校の校舎に沿って花壇があり、グリーンカーテンを行う際は直植えをすればよかった。しかし、建替えに伴って花壇がなくなるケースが多いため、結果としてプランターに植えることになった。コストも高いし、生育もよくない。</p> <p>区の方針として全校で行うならば、建替時は花壇を残した方がよいと思う。</p>
事務局	<p>確かに直植えしたグリーンカーテンは立派である。</p>
会 長	<p>本日は多方面にわたるご議論をいただき、事務局も参考になると思う。環境モデル都市を目指すにあたり、防災の観点も一つのキーワードになる。最近の言葉では、レジリエンスとも言い、国全体を強靱な街にするという意味で検討していただきたい。</p> <p>また、例えば「環境学習日本一のまち」という大きなスローガンの下で、切れ目のない人づくりを進める、小さな子どもから高校生・大学生・大人まで町ぐるみで意識を変えることもキーワードになる。</p> <p>福祉施設が多い、中小事業者が多いという区の特性の中で、区民が住み続けたい町になうような計画づくりをお願いしたい。</p> <p>それでは報告事項を事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>環境審議会資料つづりをご覧いただきたい。</p> <p>第二次足立区環境基本計画改定版の目標に対する進捗状況につ</p>

いて報告する。資料2をあわせてご覧いただきたい。環境基本計画の6つの柱について、目標、実績値、評価等を記載している。全体的におおむね目標は達成している。しかし6つの柱のうち、「環境に配慮したまちづくり」の緑化の資料はあまり進んでいない。民間の緑化も含めて、担当課と協議を行っていく。

次に区施設における25年度エネルギー使用量がまとまったので報告する。電気、都市ガス使用量とも目標に近づいているが、ごみ量は増加している。経年比較を見ると右上がり傾向にある。電気使用量が増えた要因は、24年度末に休業していたギャラクシティがリニューアルオープンした影響があると考えられる。各施設にお願いして目標を達成できるよう努める。

次にあだち環境ゼミナールの新設について報告する。次に報告する環境スペシャリスト事業も含めて、切れ目のない環境学習を推進している。7月に受講生を募集した結果、当初は20人と予測していたが33人から応募があり、全員に参加いただいている。全講座のうち、7割以上の出席、レポートの提出により、環境マイスターとして認定する。

次に環境スペシャリスト発掘事業について報告する。中学生を対象にし、環境スペシャリストを育成するもので、今年は7人の応募があった。実験中心に行っており、修了後、環境スペシャリストに認定する。

次にエコ活動ネットワーク足立(EANA)の新設について報告する。これまでの区民環境フォーラムと温暖化防止区民会議実行委員会を発展的に解消し、自主的に活動する環境団体のゆるやかなネットワークを作ることを目的としている。活動内容は、団体の活動内容を区のホームページを使って情報発信、交流会の開催、区の事業への協力や政策提言も行うなど自主的に環境活動を行っていく。情報発信や交流により、団体同士の連携やビジネスチャンスが生まれ、相乗効果が期待できる。組織・加盟参加団体に呼びかけを行った。当初は50団体で組織する。

次に平成26年度環境基金助成事業交付団体の決定について報告する。毎年、環境の保全に貢献する活動に対して助成を行っている。今年は7団体から応募があり、6団体に助成した。助成決定した6団体の活動名は次のとおりである。

- ・「環境意識向上を促す小学校デジタル教材開発とその効果」
- ・「東京未来大学における環境教育の取り組み」

	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境配慮行動を促進する心理的要因の検討」 ・「太陽熱温水器模型キット教材の製作と普及」 ・「あだち野菜からみる食と環境と健康」 ・「固体高分子型燃料電池用の触媒およびスタック再生の技術開発」 <p>交付金額はそれぞれ記載のとおりである。</p> <p>次に足立区のごみ出しアプリの配信開始について報告する。スマートフォン向けのアプリケーションとして、ごみ出しアプリを開発した。ごみの分け方・出し方をいつでも検索できるもので、登録するとごみ収集日の希望した時間にメールでお知らせする。また、資源ごみ買取り市の開催場所を表示し、現在地から開催場所までナビゲートする。粗大ごみの申込みも行うことができる。台風等でごみ収集ができない場合の緊急情報も発信できる。都内の他自治体でも既に配信しているが、ごみ出し品目の音声検索が可能、GPSを利用したナビゲート等の相違点がある。特に若い世代からごみ収集のルールや出し方が分からないという声があったため開発した。将来的には外国人にも使っていただく。</p> <p>報告は以上である。</p>
委員	ごみ出しアプリのダウンロード件数はどのくらいか。
事務局	10月30日現在で、1,071件ダウンロードされた。ごみの出し方が分からない人でも、アプリを使用すれば、自分のエリアの曜日が分かるので情報発信の新しい手段である。
副会長	<p>エネルギー使用量について、区全体では目標をほぼ達成しているにも関わらず区施設の進捗は芳しくない。目標年次が27年度に対して、26年度時点で電気・都市ガスともに目標の半分程度である。区民にはお願いしているのに、区自身は努力不足ではないか。来年度から公用車に電気自動車を導入、充電設備も増やしていくのに達成が見込めるのか。</p> <p>さらに、ごみ量はむしろ増加している。先ほど、ギャラクシティのオープンがエネルギー使用量増加の要因と説明があったが、基準年度の22年度は開館していたので、同じだと思う。</p>

会 長	他に質問等はいかがか。
委 員	資源ごみ持去りについて、千住新橋近辺で買取りを行う場所がある。資源ごみ自転車に積んでいるのをよく見かける。金銭の受け取りも見受けられる。チェックはできないか。
事務局	<p>パトロールは車2台で回っているが、全部は網羅できない。今後、重点的にパトロールを行っていく。</p> <p>千住新橋の施設は区でも把握しているが、自転車に積んでも、現行犯で持ち去りしているところを目撃しなければ、対応ができない。ただ積んであるものは、「もらってきた、自分のもの」といわれれば、何もできない。来年度は監視体制を強化する予算措置をしていく。</p>
会 長	<p>環境スペシャリスト、環境ゼミナールは来年度も引き続き実施するのか。こうしたものは、最初の年はよいが、次年度以降は参加人数が減る傾向にある。</p> <p>また、講座修了後、受講生は環境マイスター、環境スペシャリストの認定を行うとあるが、その後の展望はあるのか。修了した方々に、どのような形で継続的に学習してもらえるか、活躍の場があるのか、ぜひ工夫していただきたい。</p> <p>EANAのネットワーク組織を立上げるとはとてもよい。交流だけでとどまってしまう例が多いので、具体的な行動に結びつけたほうがよい。例えば分科会方式や、環境モデル都市の構築や、計画を策定するにあたって検討部会としてなど具体的な課題ができればよい。</p> <p>環境基金助成制度について、区がこれだけの金額を出す例は非常に少ない。採択された活動がどのような形で区民に還元されるのか。成果を区民の前で発表する機会を設けるなど、還元される仕組みを作る。もう一つは具体的な環境保全活動に対して支援できる仕組みになればよい。研究だけでは技術レベルの話でとどまってしまう。実践活動に対する支援ができればよいと思う。</p>
事務局	電気使用量については各担当課と協力しながら削減に努めていく。現在、電力使用量の見える化を行っているが、様々な事業者

	<p>様が様々な取組みを行っているので、来年4月から導入する予定である。また太陽光発電を公共施設にも導入していく。</p> <p>補足として、ギャラクシティは基準年の22年度の時は、来場者が年間20万人もなかった。リニューアル後は施設を大きく変え、130万から140万に増加したので単純に電気使用量は増加している。</p>
会 長	<p>多くのご意見をいただいた。午後は現地視察がある。</p> <p>最後に事務局から次回の日程等の案内をお願いします。</p>
事務局	<p>次回は1月14日の午後3時を予定している。開催通知については1か月前に送付する。</p> <p>この後、施設見学会に参加の皆様は11時50分に中央館1階の総合受付に集合とする。</p> <p>事務局からは以上である。</p>
会 長	<p>本日も活発なご意見をいただき、感謝申し上げます。</p> <p>以上で第2回足立区環境審議会を終了する。</p>

(議事録署名)

平成 26 年度第 2 回足立区環境審議会議事録署名

(平成 26 年 10 月 31 日開催)

会 長	田中 亮
署名委員	佐藤 強士
署名委員	渡邊 涼勝